

地域の個性を活かした流域ガバナンスの実現に向けて

琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会 報告書（素案）概要

琵琶湖・淀川流域における課題と解決の方向性について

課題 琵琶湖・淀川流域において取り組むべき 8 つの課題

① 河川整備の着実な実施と総合治水・流域治水の推進

水系一貫の計画的な河川整備の推進 森林保全に一層注力
地域特性に応じた流域対応 まちづくりと連動した対策にも注力

② 利水システムの多重化

代替水源の確保 給排水システムの多重化 各戸貯留の普及
下水処理水の再利用 湧水・井戸水の災害時利用

③ 地下水の保全

流域単位で地表水と地下水の一体的保全 過剰取水の抑制
府県・市町村が足並みを揃えて対応できる制度的枠組みの構築

④ 水インフラの老朽化対策

効率化によるコスト縮減 維持管理に関する財源の優先確保
人口減少も見据えた選択と集中 上下水一体管理・広域化・民営化

⑤ 流域生態系サービスの総体的な維持・向上

調整サービスに重点 縦横断連続性の回復 農林水産業の活性化
再自然化 グリーンインフラ整備 漂着ごみ発生源対策 小さな自然再生

⑥ 総合土砂管理の推進

土砂災害防止法等による区域指定 流木発生を考慮した河道計画
土砂の動的平衡状態の回復（適度に土砂が流れる状態）

⑦ 水の危機管理の強化

新技術・情報の活用・普及 連携強化による緊急体制の構築
緊急時の施設運用の改善（ダム・堰など） 流域圏外との水融通

⑧ 流域文化の個性と繋がり再生

地域の個性と役割の再認識 流域文化の多様性の維持
観光資源化 “流域の恵み”（地域資源）を活かした経済活動の自立

方向性 地域の個性を活かす流域ガバナンスの実現

統合的流域管理の必要性

- … 気候変動・人口減少で課題も変質。ひとつの自治体やセクターでは解決できない課題 – “はざまの問題” – が顕在化
- … 課題解決には、行政区画を越えた流域単位の視点、行政分野を横断した視点が必要

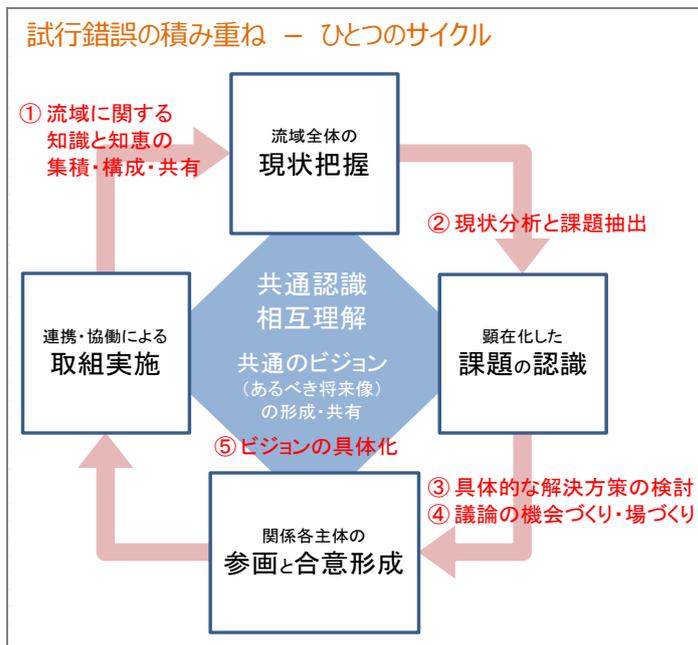
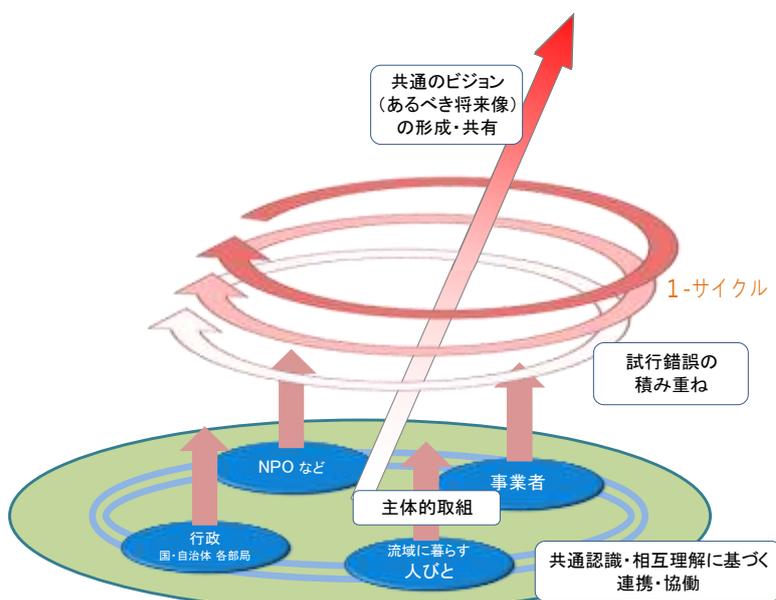
流域管理の目的 – “健全な水循環”の実現

- … 流域圏をひとつの単位として、生態系サービスの総体的な維持・向上を図りながら、水に起因するさまざまなリスクを軽減するとともに、持続可能な水利用を実現することによって、将来にわたって圏内住民ひとりひとりが享受する福利を最大化

望ましい流域管理のあり方 – 流域ガバナンス

- … 流域に暮らす人びと、NPO、民間事業者、市町村・府県・国の各部局といった流域各主体の連携・協働を基本
- … さまざまな課題に対して臨機応変に関係各主体が連携・協働し、試行錯誤を経ながら取組を積み重ねていく
- … 流域に暮らす人びとの意思を背景とした課題設定が連携・協働の動機 – 結果として政策の統合が進む

流域ガバナンスのイメージ



(裏面につづく)

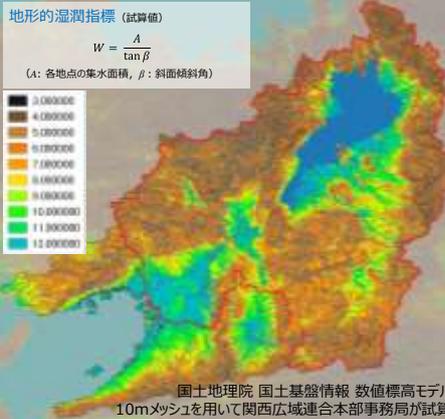
地域の個性を活かした流域ガバナンスの実現に向けて

琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会 報告書（素案）概要

処方箋 流域ガバナンスの調整役（コーディネーター） - 流域ガバナンス向上のための裏方・舞台まわし

- … 自らは決定・実施せず、流域各主体によるコミュニケーションを支援し、それぞれの自主的な取組、連携・協働のお膳立て
- … 流域に関する知識・知恵を徹底して集め、提示し、流域各主体の客観的根拠に基づく政策決定をサポート

流域ガバナンスを向上させるための5つの役割

<p>①流域に関する知識と知恵の集積・構成・共有 【流域のアセスメント - 共通のものさし】 …公開データと解析技術を活用し、流域全体のリスクやサービスを地先レベルで定量評価 …学区・行政区画・流域圏など任意の範囲で集計 - ささまざまな立場から比較衡量も可能 …共通認識・相互理解の醸成 - 流域各主体による意思決定のための客観的根拠を準備</p> <p>【流域の知恵】 …技術的・制度的知見、先行事例の収集・共有</p> <p>【流域各主体の関心事】 …暮らす人びと、各主体の関心に耳を傾ける</p>	 <p>国土地理院 国土基盤情報 数値標高モデル 10mメッシュを用いて関西広域連合本部事務局が試算</p>	<p>③具体的な解決方策の検討 …技術的・制度的側面から解決可能性と代替案を検討 - ささまざまなチャンネルで提案 …画一的手法ではなく、地域の個性を尊重</p> <p>④議論の機会づくり・場づくり …課題解決に向け、連携・協働に至るまでの枠組み・プロセスを柔軟にお膳立て …課題解決と同時に各主体の関心に貢献するプロセスにより、自主的な参画を促す。 …俯瞰的な視点と知識と知恵を駆使して、流域各主体による創造的・建設的なコミュニケーションを支援</p>
<p>②現状分析と課題抽出 …流域全体の福利向上に資する課題を見出し、提案する - 流域全体を俯瞰しながら、そして、流域に暮らす人びとの立場から</p>	<p>⑤共通のビジョン（あるべき将来像）の具体化 …逐次、流域全体で共有できる共通のビジョン（あるべき将来像）の具体化を試み、問いかけ、共通認識・相互理解をより醸成</p>	

ガバナンスの調整役（コーディネーター）の4つの要件

- … ①流域各主体からの信用、②共感できる課題の設定能力 課題解決に向けての ③技術力 と ④調整能力

提案 関西広域連合の果たし得る役割

- … 未だ要件は満たさない。しかしこの先、ガバナンスの調整役（コーディネーター）を担えるように、3つの提案

<p>提案① 流域のアセスメントの実施、および8つの課題に関連する国内外の取組事例の収集・整理を行い、定期的にレポートを作成する。</p>	<p>提案② 流域の状態に関する客観的な根拠に基づき、（小さくてもよいので）優先すべき課題を取り上げ、議論の機会・場づくりと具体的な解決方策の提案を試みる。</p>	<p>提案③ 流域管理に関連する既存のさまざまなプラットフォームに積極的に参加し、俯瞰的な視点と知識・知恵を駆使して、合意形成・課題解決に貢献する。</p>
--	---	---

- … 例えば、関係各主体（ステークホルダー）からの“前向きな”合意が得られれば、水循環基本法に基づく流域水循環協議会の事務局を引き受け、流域水循環計画の草案作成を行ない、合意形成に貢献することも。
- … そして、調整役（コーディネーター）としての実務能力と信用を得たうえで、次のステップとして、流域各主体の参画のもと、関西の総意としての流域管理に関する方針を具体化し、より豊かで安心して暮らせる流域の実現に貢献することを期待。

琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会

設置期間 平成 26 年 7 月～平成 28 年 7 月（平成 28 年 5 月までに 10 回開催）

諮問事項 1) 琵琶湖・淀川流域における課題整理 2) 流域対策のあり方、統合的流域管理の実現の可能性

委員	中川 博次	京都大学名誉教授（座長）			
	石田 裕子	摂南大学理工学部 准教授	津野 洋	大阪産業大学人間環境学部 特任教授	
	角 哲也	京都大学防災研究所 教授	中川 一	京都大学防災研究所 教授	
	多々納 裕一	京都大学防災研究所 教授	中村 正久	滋賀大学環境総合研究センター 教授	
顧問	嘉田 由紀子	びわこ成蹊スポーツ大学 学長			
ゲストスピーカー	三橋 弘宗 (第7回)	兵庫県立大学自然・環境科学研究所 講師	北村 裕明 (第10回)	滋賀大学大学院経済学研究科 教授	
	新川 達郎 (第8回・第10回)	同志社大学大学院総合政策科学研究科 教授	山下 淳 (第10回)	関西学院大学大学院法学研究科 教授	